

第23回「日韓高校生交流キャンプ」参加生徒の感想文 ⑥

「仙台・南三陸で経験したかけがえのない6日間の体験」

岡田 博嵩

海城高等学校 1年



今は8月14日、日韓高校生交流キャンプが終わって11日経った。終わった直後はなんとも言えない寂しさに満たされていたが、今は落ち着いてきた。これから日韓高校生交流キャンプの6日間、仙台・南三陸で感じたことを書いていきたい。

初日、これからキャンプが始まるんだというわくわくした気持ちで仙台駅のバスに乗った。南三陸のホテルに着くと、キャンプのホテルの部屋で韓国の学生と初対面した。簡単な自己紹介やお互いお菓子の交換などをしたが、少しぎこちなかった。その後オリエンテーションでメンターさん含め簡単な自己紹介をした。そして、チーム名を決めようということになり、皆で話し合った結果、「Puzzle」というチーム名にした。皆がバラバラのピースの中でこのチームで一つになろうという意味を込めてである。その後部屋ではお互い打ち解けて話していた。

2日目は最初に語り部バスという被災地、

南三陸をバスで回るツアーというものに参加し、被災地を直接目で見てきた。初めて行ったが、テレビでは知らなかったような様々なことを学ぶことができた。その後、漁業体験ということで、船に乗り、養殖しているホタテなどを食べさせてもらった。美味しかった。午後は、経済現場体験ということで、南三陸さんさん商店街に行き、お昼を食べてから、屋台のお手伝いをした。最高気温35℃の日に、揚げ物を取り扱うお店でのボランティアは流石にきつく、立っているだけで精一杯だった。あまりお店には貢献できなかった。

2日目の夜にはゴールデンベルがあった。これはこのキャンプで一番楽しかった。韓国の学生と2人でチームを組んでクイズに挑むのだが、ペアの相手が偶然同じチームの韓国の女の子だった。その子とはまだあまり話せていなかったが、このゴールデンベルと一緒に戦い、仲良くなることができた。団結力では1番だった自信がある。惜しくも賞には届かなかったが、言語の壁を

乗り越えてとても楽しむことができた

3日目は事業発表のための準備を一日中していた。行う事業も順調に決まり、着々と準備をしていた。そんな時、午後5時頃、韓国の学生とスタッフの方がこの事業は無理があるのではないかと日本人に詰め寄り、一瞬不安がよぎったが、メンターさんの通訳を通して日本人と韓国人お互い何をしているのかわかっていなかったことがわかり、安心した。しかし、最高のものを作ろうとしていると時間があまりに足りなく、ホテルのロビーで真っ暗な中、スマホのライトの上にペットボトルを置いてランタンのようにしてずっと準備をしていた。ここでも、日本人と韓国人の価値観の違いによってプレゼンで使うスライドについて対立が生まれていたが、なんとか間を取る形でお互い納得することができた。終わったのは朝の5時30分だった。外はすでに日の出の時間で明るくなっていた。かなりつらかった。

そして4日目、事業アイテム発表の時間が来た。みんなで円陣を組み、よし、やっやろうという気持ちでプレゼンをした。結果、全体で2位タイにあたる、優秀賞をもらうことができた。会場で西野カナの「あなたの好きなところ」という曲が流れる中でみんなで喜びをわかちあい、一緒に写真を撮りまくったあの時の達成感、清々しさは今でも忘れない。その後はみんなでBBQと花火をした。日本と韓国の学生が一つになって遊んだ感じがしてとても楽しかった。その日の夜は、明日のタレントショーで小

島よしおのネタをやることになり、部屋で朝3時ぐらいまでわいわい暴れながら遊んでいた。

5日目。一日中ある最後の日だ。午前中は松島を観光し、午後は仙台駅に行ってみんなでお土産を買って記念にプリクラを撮った。その後夕食を食べ、みんなに一言ずつメッセージを書いた。書きながらその時初めてもうキャンプが終わってしまうことに対してとても悲しくなった。その後タレントショーで小島よしおのネタをやり、完全に滑っていたが僕なりには後悔なくやりきった感じがした。最終日の夜はツインの部屋に10人で集まり、(かなり狭い笑)、いろいろ話したり、お菓子、カップラーメンを食べたり、トランプをして遊んだ。朝の3時半に力尽きたが。(笑)

最後のお別れの時は泣きそうになるのを必死にこらえながらにこにこ笑っていた。みんなで円陣を組んで掛け声をし、後悔の無いよう、言いたいことを全部言ってハグをして別れた。

この6日間であまりに多くのことを学ぶことができた。韓国は、報道の影響もあって、正直あまり好きではなかったが、実際に話してみて、印象は180度変わった。韓国人と日本人の価値観やさまざまな共通点、相違点がわかっていくにつれ、楽しかった。韓国の素晴らしい点もたくさん知ることができ、韓国がとても好きになった。確かに今は政治的な関係は良いとはいえないが、

若者は仲良くなれるんだ、ということを示せたと思う。いつか韓国に旅行に行ってみたい。Team 1のメンバーとは今も連絡を取り合っている。一生の友達をつくることができた。この関係をこれからも大切にしていきたいし、いつか絶対に再会したい。

最後に、主催してくださった日韓経済協会、また、影で支えてくれたJKSFFのOBの皆さん、そして参加者はもちろん、メンターのヨンジさん、Team 1のみんなに感謝し、この経験をこれからの人生で何らかの形で活かしていきたい。そして、このキャンプが来年、再来年、もっともっと先まで続い

ていくと思うとわくわくする。

最初バラバラだったピースは1つに組み合わせさせた。今度は完成した絵を大切にしながらこれからも様々なことに挑戦していきたい。



「景色」

姜 雨林(カン・ウリム)
徳仁高等学校 2年



モクポから仁川空港までKTXで約3時間、仁川空港から日本の仙台まで約2時間、仙台から南三陸まで約1時間、全羅南道の果て、モクポから日本の南三陸までの旅程は新しい経験でいっぱいだった。

南三陸ホテル観洋に到着し、ようやくチーム2のみんなと会うことができた。日本語は一言もしゃべれなかったのが、日本の参加者とコミュニケーションがとれるかどうか心配していたが、チームメイトのアラ

タが初日からグーグルの翻訳サイトを使ってくれたおかげで、キャンプ期間中、意志疎通に関して不便さはほとんど感じてなかった。簡単な挨拶を交わした後、みんなと一緒に夕食を食べてから、一つの部屋に集まって「007パン」というゲームをして遊んだ。チームメイトとはゲームをしながら少しずつ打ち解けていった。「007パン」というゲームは、韓国のゲームだと思っていたが、日本にも似たようなゲームがあるよ

うで、みんなルールを良く知っていた。特に、ユウカとトモミは韓国語がとても上手で、‘サンナムジャ(イケメン)’、‘キヨミ(かわいい子)’など今流行りの韓国語も普通に使っている姿がとても新鮮だった。一方、日本語が全くしゃべれない自分が本当に恥ずかしくなる瞬間でもあった。

日韓の高校生 80 名が南三陸ホテル観洋に集まったのは、一つの目的があったからだ。それは、東日本大震災で大きな被害を受けた南三陸町を復興させるために、両国の学生と一緒に新しい事業を企画し、発表することだった。

チーム名を「ニコニコニ」と決めて、事業アイテム企画を始めた。うちのチームの事業カテゴリーは、「サービス・おもてなし」だったが、サービスという言葉自体がとても抽象的で、事業アイテムを企画するのにかなり苦戦した。結局、初日は、事業アイテムを決められず、みんな早く寝ることにした。早く休めるのは嬉しかったけれど、このままだと事業の企画ができなくなるのではないのかな、という不安もあった。

二日目の夜は、ゴールデンベルというプログラムがあって、私はチーム 8 の「イトウ ハナ」という日本の女子とペアになった。ハナとは学年、好きな科目など共通点が少なくなく、すぐに仲良くなることができた。問題に答えていきながら、たくさん話し合いをした。ハナは、ナンセンスクイズと科学分野が強く、私は、社会分野に強かったので、かなりいい線まで進んだ。二

人とも知らなかった問題は、ほとんど勘で当ててしまうほど運も良かった。結局、決勝まで残ることはできなかったが、チームメイト以外の日本の参加者と共に良い経験ができたので嬉しかった。また、ゴールデンベルの優勝、準優勝の両方にうちのチームメイトがいたので、ゴールデンベルの後は、チームのみんなでお祝いした。

それからの日程は、全て事業発表会に関わるものだった。バスに乗って、津波の被災地域を見学しながら震災学習に参加したり、養殖漁業体験のために実際に船に乗って海に出たりした。韓国のウミネコは人に近寄らないのに、日本のウミネコは人懐こかった。船の手すりに座っているウミネコも多かった。穏やかな日本人に似ているからかな・・・

うちのチームは、日本経済現場体験としてホテルのレストランで食事の支度を体験した。多量の器を並べて、ご飯をよそい、料理をセッティングした。お客様を満足させる最高のホテルにするために数百人の職員さんが自分の役割を精一杯果たそうとしていた。その姿が本当に格好良く見えた。これから、快適なサービスを利用する際に



は、その快適さのために最善を尽くしてくれた多くの方々の努力を忘れないようにしようと思った。最終的に事業アイテムを決める時に、ハンソルさんとトモミ、ヨンリンは、震災を体験できるキャンプ、4D映画、増強現実などを利用して東日本大震災を説明できるアプリケーションを作ろうという意見を出した。私は、お水などのペットボトルのパッケージに東日本大震災当時の様子と復興していく町の様子が比較できる写真をプリントし、売り上げの一部を南三陸へ寄付するというアイデアを出した。ありがたいことに、多くのチームメイトが私の意見に賛成してくれて、「MSW」という名の協業ブランドを立ち上げることにした。

事業発表会を準備する過程では、デザイン高校に通っているヨンリンのフォトショップを操る実力がキラキラと光を放ってくれたおかげで、うちのチームの事業アイテムをうまく実体化することができた。周りからもたくさん褒めてもらい、全体3位という素晴らしい成績で事業発表会を締めくることができた。

事業発表会の後、清々しい気持ちで楽しんだキャンプファイヤーとその日の夜、また次の日の仙台自由観光の時間は、素敵な

思い出として残っている。特技披露のためにダンスの練習をしたり、「バニバニ」、「二重モーション」、「マフィア」などみんなでゲームをしながら遊んだり、より一層仲良くなることができたから。

お別れの日、ホテルの前で泣いている仲間がたくさんいた。一人が泣き出すと、チームのみんなも一緒に泣き出してしまった。いつかは別れると分かっていたけれど、本当に寂しかった。もっと積極的にやればよかった、もっと他のチームの参加者ともたくさん話せばよかった……。

感想文を書きながらキャンプの時を思い返してみると、本当に素敵な友達にたくさん会えたんだな、と改めて思った。あまり感情を表に出さない私とは違って、日本の友達は些細な事にも精一杯リアクションをしてくれた。いつも私を元気付けてくれたり、励ましてくれた彼らの心が、本当にありがたかった。

今年の冬、チームメイトたちとソウルで再会しよう約束した。一人も欠かさず再会してまた新たな思い出をたくさん作りたい。「2トハギ(+)
2はキヨミ(かわいい)」、チーム2ファイト！

「感想」



平田 美葉

埼玉県立不動岡高等学校 1年

私は学校に貼ってあった日韓高校生交流キャンプのポスターを見て応募させてもらいました。私は元々韓国の文化や歴史について興味があったためポスターを見かけてすぐに決めました。行けることが決まったときはこのようなものに応募するのが初めてだった緊張もありとても嬉しかったです。

一日目、私は大宮駅から新幹線で仙台駅まで一人で来ました。六日間仲良く暮らせるのか、韓国の学生としっかりコミュニケーションがとてるのか、ととても緊張していました。ホテルに着き日韓の学生たちと面会するとみんなとても賢そうでより一層緊張が増しました。しかし、チーム内の韓国語での自己紹介もしっかり練習した通り言い、伝えることができ他言語を使って人に伝えることの楽しさを感じました。それから積極的に韓国の学生に話しかけるようになった気がします。

二日目、語り部観光バスに乗り震災の思い出についてのお話を聞きました。それまで通って来た道は家やビルや畑や森ばかりで私の住んでいる町と変わらない様子だったため実際に津波にのまれた建物や場所を見ると言葉を失ってしまいました。話の中

に出てきた山の上までお年寄りを最後まで諦めず助けに行った学生達の素晴らしさに感動しました。私がお場にいたらその学生達のように動けるような人にならなくてはならないと思いました。

また、漁業体験のホタテや農業体験の働いた後のお水やゴールデンベル準優勝などとても美味しい一日でした。

三日目、一日中事業発表の準備は昨日の体験を基に、集中して予算などの細かいところまで調べプレゼンテーションを作り上げることができました。夜中までみんなで練習をして眠かったが忘れられない一日になりました。

四日目、発表会を行いました。他の班の発表は私たちの考えもしなかった内容ばかりで勉強になりました。私たちの班も伝えたいことは伝えきることができる発表ができました。

夕方の縁日では美味しすぎてカレーを三杯も食べてしまいました。花火も楽しかったです。

五日目、松島で船に乗りその後、班ごと観光しました。韓国の学生にどこに行きた

いのかを聞くと「ドンキホーテ」へ行きたいと言い、とても驚きました。また知らなかった韓国のことがわかった気がして嬉しかったです。

班のみんなでのんびり楽しく観光が出来たが思い出話をするたびに別れが近づいているのだと感じ寂しくなりました。しかし、夜中じゅうチームみんなでゲームや話ができしたのは六日間の中で一番の思い出です。

六日目、日韓の学生たちで別れの挨拶を言い合いバスで空港に向かう韓国の学生を

見送りました。自分でも不思議なぐらい色々な気持ちが溢れてきて涙が流れてしまいました。たったの一週間ではあったがとても大切な友達ができただと思います。

景色は美しくホテルもとても綺麗で食事は美味しく温泉も気持ち良く仲間は強くメンターさんや OBOG の方々や運営の方々はとても優しくとても有意義な六日間でした。これからもこの六日間で学んだことや出会えた仲間たちを大切にしていきたいと思います。ありがとうございました。

